

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 9 月 21 日現在

機関番号：64401

研究種目：新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06411

研究課題名(和文)人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築

研究課題名(英文)Anthropological Study on Cultural and Behavioral Change through Dispersal and Contact of Human Populations

研究代表者

野林 厚志(NOBAYASHI, ATSUSHI)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・教授

研究者番号：10290925

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 85,160,000円

研究成果の概要(和文):パレオアジアの多様な自然環境のもとで、新人(Homo sapiens)の文化がどのように展開したのかを考古学資料を通して検証するために参照可能なモデルの提案を目的とし、(1)生態資源利用技術との関係に関する民族誌データの収集、(2)通文化研究による自然環境と集団分布の相関モデルの構築を進めた。その結果、1)高緯度地域や湿潤熱帯区における技術的適応と社会的適応の諸相を、狩猟(哺乳類利用)と採集(タケ・ヤシ製道具技術)を中心に明らかにするとともに、2)、ユーラシア中央部の高山地帯を境界とした新人集団の移動、拡散について、南まわり(採集主体)・北まわり(狩猟主体)、の生業・技術適応ルートを提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新人(ホモ・サピエンス)を状況に応じて多様な行動をとりうる文化的、社会的集団としてとらえる視点を、民族誌データ、物質文化の分析をもとに研究領域にくみこみ、ユーラシア拡散のルートが狩猟を基盤とする生態適応(北方)と採集を基盤とする生態適応(南方)に類型化される見通しを提供したことは、アジア各地域における新人と旧人の生物学上と文化の交替の時期のずれの説明という人類史の大きな課題にとりくむうえで、検証すべき仮説モデルを具体的に示す学術的貢献を果たした。これは、数万年かけて醸成した文化の多様性が自然環境の多様性と不可分であることを示し、自然環境を文化という観点から考えることを社会に問い直すものとなる。

研究成果の概要(英文):The aim of this study was to propose a model that can be referenced to examine how the culture of the modern human (Homo sapiens) developed in the diverse natural environments of PaleAsia through archaeological data. Specifically, (1) ethnographic data on ecological resource utilisation techniques were collected, and (2) a correlation model between natural environment and population distribution was developed through the cross cultural research. As a result, 1) aspects of technological and social adaptation in high latitudes and the humid tropics were clarified, with a focus on hunting (mammal use) and gathering (bamboo and palm tool technology), and 2) the migration and diffusion of the modern human groups bounded by the high mountainous areas of central Eurasia, with a southern (gathering-dominated) and northern (hunting) routes of subsistence and technological adaptation proposed.

研究分野：人類学

キーワード：ホモ・サピエンス 生態資源 社会関係 象徴化 生業技術 多様性 移動性 狩猟採集

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在、地球上に住む人類集団は新人(ホモ・サピエンス)とよばれている。新人の出現については長らく、新人に対する先住者であった旧人から進化したとする多地域進化説が唱えられてきたが、1980年代末以降、遺伝学の急速な進展とともにアフリカ起源説が主張されはじめ、現在では、約20万年前頃、アフリカ大陸で誕生した新人(ホモ・サピエンス)は、10~5万年前頃以降、ユーラシア各地へと拡散したことが定説となっている。

一方で、新人の文化の拡散については必ずしもこの定説では説明できない部分が残されている。新人拡散期にあっても、なお旧来の文化が継続した例が中央アジア以東各地、特に、中国南部や東南アジアなどで繰り返し指摘されてきた。これらをもって、多地域進化説を再主張する研究者もいるほどである(Derevianko 2010など)。新たなヒト集団が拡散したはずなのに、なぜ、文化が変化しない(ように見える)地域があるのか。このパラドックスに対する単純な回答は交雑・交流があったということだが、なぜ、ある地域では文化が交替し、ある地域では交流がより進んだのかという、文化の変化や変容の多様性を裏付ける理論が求められてきた。

2. 研究の目的

本研究は、絶滅人類が生息していた頃のアジア(略称パレオアジア)において新人がいつ、どのように拡散し定着したかを文化史的観点から解明することを目的とする先史考古学、古環境学、理論生物学、文化人類学による学際的な研究領域の一環として実施する。新人と旧人の交替は、地域と時代によって異なる要因で起こった歴史プロセスであったという発想のもとに、新人とは、状況に応じて多様な行動をとりうる文化的、社会的集団としてとらえる視点と研究の枠組を、民族誌データ、物質文化の分析をもとに構築する文化人類学的な行動モデルを通して提供することを本研究の到達点とする。人類集団の文化の変化と変容の動態とその原理を、狩猟採集民や慣習的生業を保持している集団を中心とした民族誌データから明らかにし、アジアの多様な自然環境のもとで、新人の文化がどのように展開していったのかを考古学資料を通して検証するために参照可能なモデルを提案する。

3. 研究の方法

従前の研究の目的を達成するために、本研究では主として以下の方法で研究を進めた。

- (1)自然環境の多様性と生態資源利用技術の多様性との関係に関する民族誌データの収集。
- (2)集団間、集団内における技術や伝統の継承、消失に関する民族誌データの収集。
- (3)民族誌データ、歴史資料の通文化研究を通じた自然環境と集団分布の関係のモデル化。
- (4)領域他班との連携研究を通じた、民族誌データや文化人類学的モデルのパレオアジアにおける新人の拡散、定着への接合。

研究代表者、研究分担者、連携研究者が専門性を活かした課題への主な取り組みとしては、1)東南アジア諸地域(タイ、フィリピン、マレーシア)において、狩猟採集社会における生態資源獲得について、2)南・東南アジアの境界領域において、編製品を中心とする生産技術の発生のメカニズムを、3)中央アジアにおいて、居住空間、墓制・信仰と生態環境との相関性を、現地調査によって検証した。また、4)人間の象徴行動の系統的变化を図象、神話の通文化的比較によって検証を進めた。

4. 研究成果

(1)については、東南アジア大陸部から島嶼部における文化人類学的なフィールド調査の結果と、既存の民族誌データの再解釈を通して、高緯度/低緯度・湿潤、乾燥という自然環境の組み合わせと生態資源の利用技術との相関関係について具体的な知見を得た。

(2)については、中央アジアの地勢的境界地域、東アジアにおける文化人類学的なフィールド調査と、既存の民族誌データの再解釈を通して、集団接触による居住形態、信仰体系の変容、生産技術の伝承経路の変化に関する具体的な知見を得た。また、新人文化の象徴的要素である物質文化(ビーズ)、非物質文化(神話、想像図)の動態をフィールド調査と博物館資料、歴史史料の分析を通して行い、自然環境との相関、集団接触から生じる現象としての同化、共存、吸収のモデル化に取り組んだ。

(3)については、国立民族学博物館に所蔵された標本資料、eHRAF、ビンフォード・データベースの分析を行い、(1)で得られた自然環境の組み合わせと生業適応の類型に呼応した通文化環境モデルの構築を進めた。

(4)については、A01班の研究分担者との植物資源利用に関わる実験考古学的調査、単純な石器技術が多様に展開するという独特な考古学的記録が得られている東南アジア地域における共同調査を実施し、A02班の研究分担者が実施した旧人新人交替期の遺跡発掘調査への参画や調査地における民族考古学調査、B01班のプロジェクト研究員とのベイズ推定理論等の統計手法を導

入した民族誌データの分析にとりくみ、考古学と文化人類学、数理研究と文化人類学の分野間協働を進めた。

計画研究 B01 が研究領域全体で進めた成果の公開、発信の主要な内容は以下の通りである。

パレオアジアにおける人類集団の拡散と適応という先史考古学上の課題を、文化人類学、民族誌研究を連結させて探究する環境や枠組を作ってきた。

領域全体で組織、開催した研究大会では、第 3 回、第 8 回大会でホスト班を務め、「モビウス・ライン」(第 3 回)、「小石刃」(第 8 回)という考古学上の課題に生態資源とその利用法の多様性の観点をとりにくむシンポジウムを開催した。特に、「東アジア - 東南アジアにおける人類の拡散: 生態資源と利用法の多様性からのアプローチ」を統一テーマとした第 8 回研究大会は、国立民族学博物館で開催し(2019 年 12 月 14 日、15 日)、現生人類の拡散の鍵を握ると言われてきた小石刃の東南アジア、東アジア地域における動態を議論し、熱帯モンスーンから温帯森林にかけた環境差のある地域を対象に、1) 考古学的記録における利用資源(食料・道具)の特徴、2) 狩猟採集行動や植物資源利用行動の多様性、3) 古代西ユーラシア人と東アジア人の分岐(古代 DNA 等)の分析等を中心としながら、「小石刃がたくさんある地域」と「そうでない地域」の比較を通して、石器の違いを超えた共通性が資源利用をはじめとする文化的な行動から見えてくるかいかを論点の一つとした議論の展開を行った。

他班の研究者と共同で企画、開催した日本考古学協会(2018 年 5 月)第 12 回国際狩猟採集社会会議(Chags-12, 2018 年 7 月、マレーシア)のセッションでは、日本も含めたアジアにおける狩猟採集集団の歴史的な展開を議論した。特に後者については領域研究者の共編著で英文論集を刊行した。

計画研究 B01 が研究領域内の共同研究で得た成果の 1 つは、A01 班、A02 班の研究者が推進してきた各地域の発掘調査の問題意識と軌を同じくした民族誌調査から得られた。具体的には西アジアにおける鳥獣猟や東南アジアにおけるタケヤヤシを用いた道具製作に関する現地調査を通して、考古学遺跡から検出されにくい環境利用行動の具体像を復元した。また、文化人類学が蓄積してきた膨大な民族誌データを、従来の統計解析による帰納的な相関関係だけでなく、ベイズ推定理論を用いた文化現象の予測モデル構築に活用する研究を方法論的な課題も含め B02 班の研究者と共同で進めた。これらの成果は、領域の研究大会、国際第四紀学連合、アメリカ人類学会等で公開している。

計画研究 B01 の独自の成果は、従来、各地域で個別に進められてきた民族誌調査のデータをパレオアジアという地理的に広大な範囲で連結させ、新人文化の多様性と普遍性を考える枠組を構築した点にある。

本領域の研究は、パレオアジアにおいて新人がいつ、どのように拡散して定着したのか、つまり人類集団の拡散と適応について文化史的観点から解明することであった。領域の関心であるパレオアジアは熱帯から寒帯、湿潤から乾燥、内陸から海岸と、各地域の気候や地勢、それともなう植生や動物相はきわめて多様である。そこで、従来の文化生態学的な視点にもとづく環境決定論的解釈に加え、基層文化が利用資源を決定し集団を維持させていく社会文化的適応に関する民族誌的知見を蓄積してきた。その結果、B01 班では、どのように新人文化が形成されたのかの問いに対して、以下のような、A 個々の地域生態系と集団接触の動態、B アジア全体を視野にいれた人類集団の移動と環境適応、という空間スケールに応じた文化人類学的理論モデルから解釈を試みた。

A 地域生態系と集団接触の動態

アジアにおける新人文化の多様性は、近現代に生存する狩猟採集民に関する民族誌やエスノ

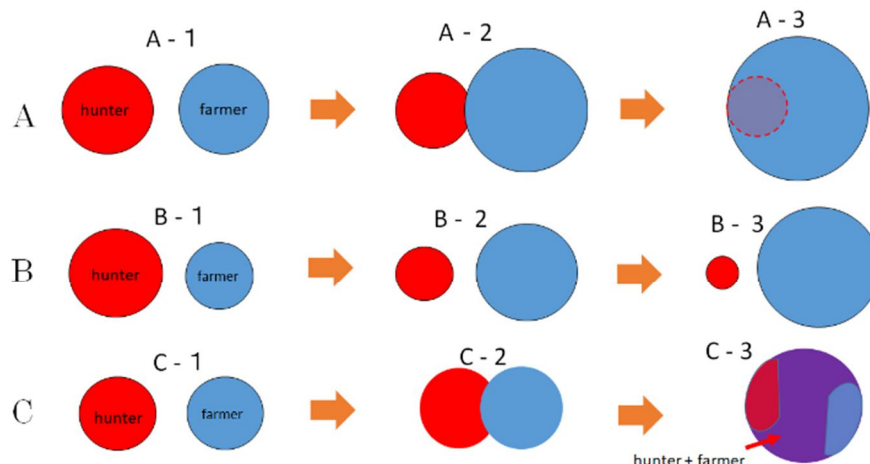


Figure 3. Dynamic model of relationships between hunter-gatherers and farmers: (A) assimilation; (B) coexistence/symbiosis; (C) fusion. Circle size represents the population size (made by K. Ikeya).

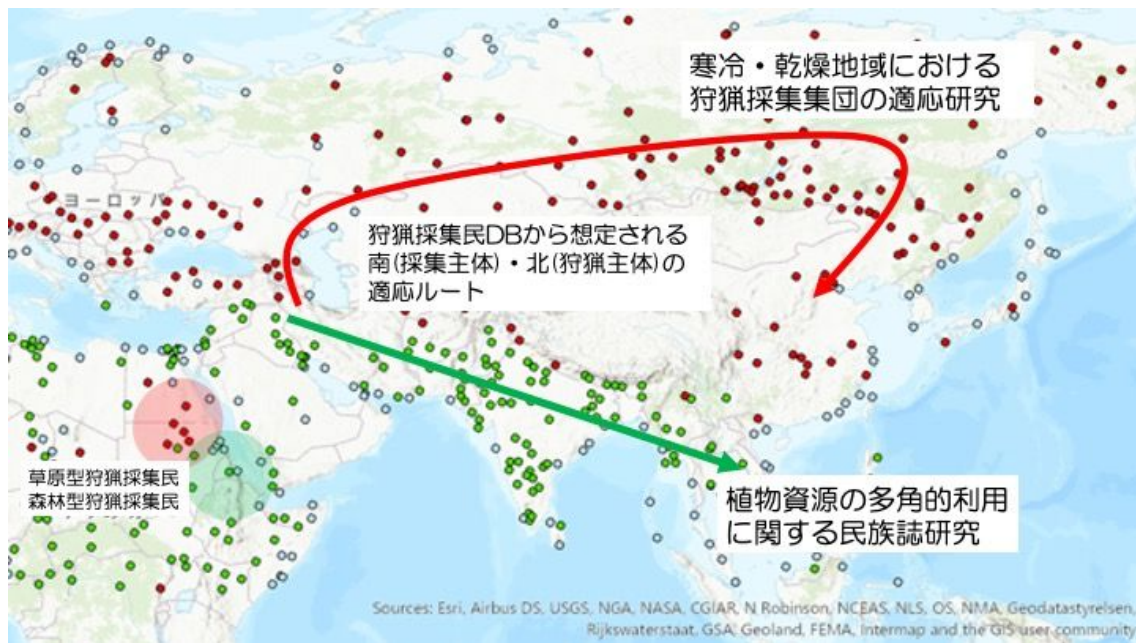
ヒストリー資料によって、次のような6つの生態区、寒冷地、湿潤温帯、乾燥温帯、高山地帯、湿潤熱帯、島嶼部に対応した類型で検証することが可能であること、新人文化の形成プロセスについては、6つの生態区への狩猟採集漁労による技術的対応、それに加えて社会的対応を民族誌資料のなかからそれぞれ認めることができた。とりわけ後者は、文化形成の過程のなかで移動してきた狩猟採集民と先住の集団との関係を共存や融合や同化の3つの類型から整理することができた（Ikeya 2021, 上図）。

6つの地域生態区のなかでは、とくに湿潤熱帯区に焦点を当てた際の技術的適応と社会的適応の諸相を民族誌資料を駆使して解明した。その結果、狩猟（哺乳類）と採集（タケやヤシ）の技術による森林環境への適応、ビーズのような装身具の機能など、パレオアジア期の考古学資料を解釈する際に参照できる枠組みを提供した。

B アジア全体を視野にいれた人類集団の移動と環境適応

ホモ・サピエンスはユーラシアへの北方拡散を果たした狩猟適応型集団と南方拡散をとった採集適応型集団にわかれ、狩猟技術の発展と植物の多角的利用の技術発展がそれぞれに強まった可能性を示唆する生態・民族誌モデルを領域全体の最終研究大会で提案した。

明確な傾向として理解できるのは、ユーラシア中央部の高山地帯を境界とし、北側は狩猟が優勢となり、南側は採集が優勢となり、ユーラシア東端から東南アジア島嶼部にかけて漁撈が優勢となることである。ヒマラヤ以北の中央・北アジアから中国北部では、狩猟を主体とし動物資源への依存と技術適応に特徴をもつ自然資源の利用形態、西アジアから南アジア、そして東南アジアはそれぞれの地域の植生に対応した植物資源の多角的利用が展開される可能性が、東ユーラシア東端から東南アジア島嶼部では海産資源の利用をとりこむ、という3つの類型が地域ごとに認められるということである（野林 2020, 下図）。



この三類型の境界には、第3回の研究大会でとりあげたモビウス・ライン、第8回で統一テーマとした小石刃をはじめとする石器パターンが対応し、パレオアジア文化史のなかでつねに議論されてきた、新人のアジアにおける二つの拡散ルートである北ルートと南ルートが対応しており、領域の研究にこれまでの研究結果をフィードバックさせることに成功した。

また、拡散の過程では、集団間の相互作用、動物や植物への異なる関心が表象や神話にも反映された文化的多様性の成立を想定するとともに、集団意識の芽生えや世代を超えた連続性の意識を示すものとしての墓制の存在を、カザフスタンをはじめとする中央アジア地域で実施した民族誌調査の成果とあわせて議論するためのモデルとして有効であることが確認できた。

以上のような空間スケールに応じた文化人類学的理論モデルが、人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化を示すと思われる考古学資料の解釈の際に有効であると考えられる。

これらの成果は刊行物や口頭発表での公開に加え、研究者も含めた一般社会への成果発信として、博物館における特別展、巡回展等を実施した（国立民族学博物館特別展「ビーズ」（2017）、「驚異と怪異」（2019）、「先住民の宝」（2020）等）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計50件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 彭宇潔	4. 巻 45(3)
2. 論文標題 個人の移住歴からみる定住化した狩猟採集民の居住形態 カメルーン東南部のバカを事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 441-469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15021/00009641	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ihara, Y., K. Ikeya, A. Nobayashi, and Y. Kaifu	4. 巻 145
2. 論文標題 A Demographic Test of Accidental Versus Intentional Island Colonization by Pleistocene Humans	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Human Evolution	6. 最初と最後の頁 102839
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jhevol.2020.102839	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeya, K	4. 巻 CL
2. 論文標題 History of Human Culture Reflected in Beads: the Bead Research Framework	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Archivio per l' Antropologia e la Etnologia	6. 最初と最後の頁 171-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信・高木 仁	4. 巻 33
2. 論文標題 ウミガメの文化誌 日本 から世界へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BIOSTORY	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Peng, Y.	4. 巻 76
2. 論文標題 Rythme et synchronisation Rhythm and Synchronization. Case studies among the Baka of southeast Cameroon: Etudes de cas chez les Baka du sud-est camerounais	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Techniques & Culture	6. 最初と最後の頁 96-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/tc.16509	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野林太郎・リクザー・フエンテス・中谷文美・金谷美和・上羽陽子	4. 巻 46(3)
2. 論文標題 「タケ仮説」再考: ウォーレシアにおける植物利用からみた石器の機能論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 375-499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15021/00009890	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 巻 4
2. 論文標題 Ethnoarchaeology of Introducing Agriculture and Social Continuity among Sedentarised Hunter-Gatherers: The Transition from the Jomon to the Yayoi Period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Quaternary	6. 最初と最後の頁 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/quat4030028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 35
2. 論文標題 海と島の先住民の生業カレンダー--台湾タオ族の魚食と根菜食	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BIOSTORY	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田仁史	4. 巻 47
2. 論文標題 神話と万葉集：月・若水・脱皮	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 234 - 245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田仁史	4. 巻 23
2. 論文標題 台湾原住民における人生儀礼	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 台湾 原住民研究	6. 最初と最後の頁 51-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, Hitoshi	4. 巻 3
2. 論文標題 Negative origin of a cultural trait? Myths of the loss of literacy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Etnografia	6. 最初と最後の頁 42-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, Hitoshi	4. 巻 5
2. 論文標題 Comparative Mythology Synchronic and Diachronic: Structure and History for Taryo Obayashi and Claude Levi-Strauss	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Comparative Mythology	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信・那須浩郎	4. 巻 32
2. 論文標題 変わりつつある野菜と人の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒澤弥悦・池谷和信	4. 巻 31
2. 論文標題 変わりつつあるイノシシと人の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 29
2. 論文標題 ビーズに秘められた可能性 (6) 生き物の歯	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bead Art	6. 最初と最後の頁 66 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 30
2. 論文標題 ビーズに秘められた可能性 (7) 多様な素材	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bead Art	6. 最初と最後の頁 60-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 31
2. 論文標題 ビーズに秘められた可能性(8)ビーズバッグ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bead Art	6. 最初と最後の頁 66-68
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 44
2. 論文標題 主役なき土地権運動 カラハリ先住民	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 56 - 63
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上羽陽子	4. 巻 2019年7月
2. 論文標題 糸での表現、布への表現	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 16 - 17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上羽陽子	4. 巻 2019年7月
2. 論文標題 バスケットリーとものづくり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 2 - 3
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上羽陽子	4. 巻 2019年7月
2. 論文標題 編み材・組み材をうみ出す	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷文美	4. 巻 1
2. 論文標題 伝統染織とは何か 伝統と革新、そして継承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民博通信Online	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, Hitoshi	4. 巻 60
2. 論文標題 Comment to: The Ethnos Archipelago: Sergei M. Shirokogoroff and the Life History of a Controversial Anthropological Concept, by David G. Anderson & Dmitry V. Arzyutov	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Current Anthropology	6. 最初と最後の頁 765-766
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/704685	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 R. Fleming Puckett, K. Ikeya and Robert K Hitchcock	4. 巻 99
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Research and Activism among the Kalahari San Today: Ideals, Challenges, and Debates (Senri Ethnological Studies 99)	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 K. Ikeya	4. 巻 99
2. 論文標題 Settlement Patterns and Sedentarization among the San in the Central Kalahari (1930-1996)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Research and Activism among the Kalahari San Today: Ideals, Challenges, and Debates (Senri Ethnological Studies 99)	6. 最初と最後の頁 177-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 28
2. 論文標題 ビーズに秘められた可能性 (5) 鉄ビーズ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bead Art	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 27
2. 論文標題 ビーズに秘められた可能性 (4) ガラスビーズ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Bead Art	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信	4. 巻 26
2. 論文標題 ビーズに秘められた可能性 (3) 貝殻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Bead Art	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 卯田宗平	4. 巻 29
2. 論文標題 鵜飼のウミウの繁殖生態と鵜匠による技術の安定化 宇治川の鵜飼における4年間の記録から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生き物文化誌学会ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 96-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西秀之	4. 巻 46 (13)
2. 論文標題 モノとヒトが織りなす技術の人類誌 / 史 : 考古学の可能性をめぐる民族誌フィールドからの応答	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 170-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 42 (4)
2. 論文標題 エスニシティを可視化する手段としての衣服 台湾原住民族サキザヤ族の民族認定を事例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 379-409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二文字屋脩・園田浩司・彭宇潔	4. 巻 83 (4)
2. 論文標題 第12回国際狩猟採集社会会議 (CHAGS-12) 参加報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 642-647
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田仁史	4. 巻 83(1)
2. 論文標題 (書評)池谷和信編『狩獵採集民からみた地球環境史：自然・隣人・文明との共生』東京、東京大学出版会、2017年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 125-129
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田仁史	4. 巻 142
2. 論文標題 蟹与蛇：日本、東南亜和東亜之洪水和地震の神話与伝説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民俗研究	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 卯田宗平	4. 巻 163
2. 論文標題 ドメスティケーションが生起する条件 しない/できない事例から考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民博通信	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 彭宇潔	4. 巻 42(7)
2. 論文標題 アフリカ熱帯雨林の狩獵採集民とたばこ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 2018.4.28
2. 論文標題 旅・いろいろ地球人 パレオアジア文化史 魂と通じる道具	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 夕刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 2018.4.21
2. 論文標題 旅・いろいろ地球人 パレオアジア文化史 運搬具と人類の移動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 夕刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 2018.4.14
2. 論文標題 旅・いろいろ地球人 パレオアジア文化史 石器文化の境界線	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 夕刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 2018.4.7
2. 論文標題 旅・いろいろ地球人 パレオアジア文化史 旧人から新人へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 夕刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷和信・岸上伸啓・佐々木史郎・戸田美佳子	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 最近の狩猟採集民研究の動向 第11回国際狩猟採集社会会議 (CHAGS11) に出席して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 321-372
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15021/00008957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西秀之	4. 巻 8
2. 論文標題 ナーナイ系先住民の集落景観を形作った土地利用と生計戦略: 景観に刻まれたソビエト体制の展開と崩壊	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 1-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松森 智彦・大西 秀之・アンドレイ P. サマル・佐々木 史郎	4. 巻 13(1-2)
2. 論文標題 衛星写真及び土地利用を活用した民族調査の事例: ロシア極東のコンドン・ウリカナツィオナーリノエ村を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化情報学	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西秀之	4. 巻 9
2. 論文標題 調査法としての身体経験: フィールドワーク教育の実践とその可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 コンタクトゾーン = Contact Zone	6. 最初と最後の頁 371-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 彭宇潔	4. 巻 9
2. 論文標題 『女性のファッション』 バカ・ピグミーの刺青実践を事例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 コンタクト・ゾーン = Contact Zone	6. 最初と最後の頁 331-346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 卯田宗平・澤木万理子・松坂善勝・江崎洋子	4. 巻 292
2. 論文標題 宇治川の鵜飼におけるウミウの繁殖・飼育技術の特徴 - 中国における鵜飼の事例比較	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中由里子	4. 巻 156
2. 論文標題 『心の進化』から驚異・怪異を捉える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民博通信	6. 最初と最後の頁 20 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 卯田宗平	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 なぜ宇治川の鵜飼においてウミウは産卵したのか - ウミウの捕獲作業および飼育方法の事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 1 - 87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 卯田宗平	4. 巻 23
2. 論文標題 人・動物関係におけるリバランスという視座 - 中国と日本の鶺鴒でみられるウ類への働きかけの事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 20 - 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 卯田宗平	4. 巻 286
2. 論文標題 鶺鴒い漁誕生の初期条件 - 野生ウミウを飼い馴らす技術の事例から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 35-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計188件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 36件)

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 人為的な植生変化と狩猟・採集との関わりについて 狩猟採集民の民族誌の事例から
3. 学会等名 第 35 回考古学研究会東海例会「愛鷹山麓の後期旧石器時代前半期における狩猟活動と植生変化」シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 狩猟採集民と隣接集団との関係 共生、融合、同化
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 9 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 シベリアにおける狩猟採集民の環境適 応について
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領 域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 10 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊田悠
2. 発表標題 9-13 世紀の中央アジア陶器の共通ス タイルと多様な文様
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・ 新学術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 10 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤康久・大西秀之・池内有為・中島健一郎
2. 発表標題 パ レオアジア研究観調査(第2 回)
3. 学会等名 文部科学省科学研 究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジ ア文化史学第 9 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤康久・大西秀之・岩本葉子・池内有為・中島健一郎
2. 発表標題 パレオアジア文化史学と学際新領域への挑戦: 研究観調査のまとめと今後の展望
3. 学会等名 文部科学省科学研 究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジ ア文化史学第 10 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷文美・上羽陽子・山岡拓也・金谷美和・Riczar Fuentes・小野林太郎
2. 発表標題 植物資源の多面的利用 用途に適した素材特性の理解と文化的選好をめぐって
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 10 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 台湾における人類集団の連続性の生態・民族誌的検証
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 10 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 海の先住民の生業カレンダー 台湾 タオ族の魚食とイモの利用
3. 学会等名 生き物文化誌学会第 79 回例会 生き物と先住民
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 島嶼社会の魚食と生業複合 台湾蘭 嶼とインドネシアハルマヘラの事例から
3. 学会等名 日本民俗学 会第 72 回年会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志・中村光宏
2. 発表標題 新旧技術が並存するための ニッチ条件の民族学的、数理解的解釈
3. 学会等名 文部科学省科学 研究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオア ジア文化史学第 9 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 「アイヌ文化」を問われた地域住民の ナラティブ:北海道東部標津町における聞き取り調査 を通して
3. 学会等名 日本文化人類学会第 54 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野林太郎・Riczar Fuentes・中谷文美・金谷美和・上 羽陽子
2. 発表標題 タケ仮説再考 ウォーレスシアにおけ る植物利用からみた石器の機能論
3. 学会等名 文部科学省科学研 究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジ ア文化史学第 10 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 小規模居住集団の居住形態 アフリ カとアジアの民族事例から
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補 助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化 史学第 9 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 カメルーン東南部における地域住民の 居住形態 狩猟採集民パカと焼畑農耕民コナンベン ベ、農耕民ンジメを事例に
3. 学会等名 日本アフリカ学会第 57 回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 狩猟採集民集団の通文化研究 熱帯 湿潤地域を中心に
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新 学術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 10 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高倉 純・池谷和信
2. 発表標題 北アジアにおける後期旧石 器時代の装飾品
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学 術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 9 回 研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上羽陽子・金谷美和・中谷文美
2. 発表標題 植物の道具利用 (2) タケ科植物とヤシ科植物の組み合わせに注目し て
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究 2016-2020:パレオアジア文化史学第 9 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田仁史
2. 発表標題 雷・竹・虫 生態認知と世界観形成
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究 2016- 2020:パレオアジア文化史学第 9 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 環境ハザードと想像的行為 雷篇
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究 2016- 2020:パレオアジア文化史学第 9 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 中世イスラーム世界における巨人像 ベルシア・アラビア語博物誌に見るアードの民
3. 学会等名 日本中世英語英文学会第 36 回全国大会 企画シンポジウム「ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における 巨人族表象の変遷」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 門脇誠二・池谷和信・近藤康久
2. 発表標題 南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡群近郊の水場に関する民族誌調査と地形解析
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷文美・上羽陽子・金谷美和
2. 発表標題 西ティモールにおける植物利用の多面性 ヤシ科植物の道具利用を中心に
3. 学会等名 インドネシア研究懇話会(KAPAL) 第3回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上羽陽子
2. 発表標題 つくることの意味を解きほぐす 手仕事とものづくりの関係から
3. 学会等名 名古屋芸術大学招待講演(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 ピグミー系狩猟採集民における日常活動と女性の月経周期に関する比較研究
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 肉食行為の人類史
3. 学会等名 中国南開大学(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 めでたい!?めでたくない!?世界の人魚
3. 学会等名 令和元年度斎宮歴史博物館歴史講座 第2回(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 世界のハンターと動物
3. 学会等名 ヒトと動物の関係学会・関西シンポジウム「狩猟採集の現代」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ikeya, Kazunobu
2. 発表標題 Hunter-gatherers and culture in Africa: Bow and arrows as an index of foraging behaviors
3. 学会等名 The SOKENDAI Advanced Science Synergy Program (SASSP) Minpaku Seminar on the Integrated Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 東南アジアの狩猟採集民からみた旧石器時代人の環境適応
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020: パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 人類は何を食べてきたか？ フィールドワークから探る肉食の30万年
3. 学会等名 大手町アカデミア・人間文化研究機構コラボ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 装いの文化誌 アフリカのビーズに注目して
3. 学会等名 国立民族学博物館コレクション 世界のかわいい衣装
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 佐々木高明と五木村
3. 学会等名 シンポジウム 『1960年の五木村の暮らし 佐々木高明氏の写真から 』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 日本の山村研究の最前線 佐々木高明氏の写真からの展望
3. 学会等名 北東アジア地域研究プロジェクト・民博拠点月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ikeya, Kazunobu
2. 発表標題 Introduction
3. 学会等名 Hunter-gathers in Asia: Ecological adaptation and social relationships
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 K. Ikeya and A. Prasetijo
2. 発表標題 Hunter-gatherers in Indonesia
3. 学会等名 Hunter-gathers in Asia: Ecological adaptation and social relationships (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信・高木仁
2. 発表標題 趣旨説明
3. 学会等名 生き物文化誌学会第75回例会「ウミガメの文化誌」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 K. Ikeya and S. Kadowaki
2. 発表標題 Adaptive strategy to dryland among Paleolithic hunter-gatherers: ethno-archaeological approach of using water and animals in southern Jordan
3. 学会等名 INQUA (The International Union for Quaternary Research) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 営みにさぐる「ヒトらしさ」
3. 学会等名 トークイベント「ヒトってなんだ?? ホモ・サピエンスの誕生から文化の獲得まで」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 カラハリ狩猟採集民における物質文化の変容：狩猟具に注目して
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 アジアの狩猟採集民の多様性
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 企画展『ピース 自然をつなぐ、世界をつなぐ』民博vs.科博
3. 学会等名 「企画展『ピース 自然をつなぐ、世界をつなぐ』民博vs.科博」講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 認知革命とピース
3. 学会等名 みんなばくウィークエンド・サロン 研究者と話そう
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金谷美和・上羽陽子・中谷文美
2. 発表標題 小石刃が卓越しない地域における植物資源の道具利用
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上羽陽子・山岡拓也・中谷文美・金谷美和
2. 発表標題 道具資源としての植物利用の多様性 ヤシ科植物の事例から
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上羽陽子
2. 発表標題 バスケットリーともものづくり 人類の「線具」利用
3. 学会等名 2019年度第2回来館者のニーズに応えるためのMMPステップアップ講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 アムール川流域におけるナーナイ系住民の漁撈活動：GIS調査データを中心に
3. 学会等名 日本シベリア学会第5回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobayashi, Atsushi
2. 発表標題 Historical Ecology of Bird Augury in Austronesian Culture
3. 学会等名 Human-bird Entanglements in the Pacific Anthropocene, AAA/CASCA Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 ハルマヘラ島における生態資源利用
3. 学会等名 みんなく国際ワークショップ『アジアにおける狩猟採集民 生態学的適応と社会関係』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 台湾原住民族の生態資源獲得の技術に関する研究 狩猟方法を中心に
3. 学会等名 第12届台日原住民族研究論壇 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 ワークショップ趣旨説明
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 生業技術の変化の文化的解釈 ハルマヘラ・ガレラ族の漁船の形態からの考察
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野林厚志・高木仁・彭宇潔
2. 発表標題 パレオアジア民族誌DBの構築に向けて(1) 狩猟技術データ投影の試行
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林豊・野林厚志・中村光宏
2. 発表標題 0,1ベクトルモデルはデータと比較可能か？
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤康久・大西秀之・池内有為・中島健一郎
2. 発表標題 パレオアジア各分野の研究観に関するオンサイト調査
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤康久・大西秀之・池内有為・中島健一郎
2. 発表標題 パレオアジア研究観調査の結果と学際性に関する考察
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Peng, Yujie
2. 発表標題 Residence styles among small-scale societies: cases from central Africa and southeastern Asian
3. 学会等名 Society for Cross-Cultural Research Conference 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 狩猟活動の季節性1：狩猟対象動物に着目して
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 彭宇潔・高木仁・野林厚志
2. 発表標題 パレオアジア民族誌 DBの構築に向けて(2) スンダ サフル生態圏における狩猟用具の素材と形状に着目して
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本透子
2. 発表標題 中央アジア草原地帯における肉の共食の社会的意味
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本透子
2. 発表標題 移動する集団の行動パターンとその痕跡 中央アジア草原地帯の事例から
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujimoto, Toko
2. 発表標題 Etnologicheskoe issledovanie Bayanaul ' skogo regiona s vzglyada yaponskogo issledovatelya
3. 学会等名 International Roundtable Discussion "History and Culture of the Great Steppe" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujimoto, Toko
2. 発表標題 Perspektivy etnograficheskogo issledovaniya kazakhov v Yaponii: Altaiskie materialy v Natsional'nom muzee etnologii
3. 学会等名 International Roundtable Discussion "Altay in History and Culture of the Great Steppe" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田仁史
2. 発表標題 東南アジア神話の多層性
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山中由里子・田村光平
2. 発表標題 合成獣イメージの構成要素コード化に関する試験的研究
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山中由里子・田村光平
2. 発表標題 合成獣イメージの複雑性：その地理的分布
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 Boundaries of the 'natural' and 'supernatural' 「この世のキワ 自然と超自然のはざま」
3. 学会等名 第37回人文機構シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamanaka, Yuriko
2. 発表標題 Witness of Wonders: Fragmented, Recycled, and Reorganized Alexander Narrative in Mediaeval Persian Encyclopaedia
3. 学会等名 There was one, there wasn't one: Modalities and challenges of the narrative in the Persianate world (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 珍獣・霊獣・幻獣・怪獣 人はなぜモンスターを想像するのか？
3. 学会等名 みんぱくゼミナール
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 K. Ikeya
2. 発表標題 Hunter-gatherers and civilization in Asia
3. 学会等名 12th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 H. Onishi
2. 発表標題 Contributing to recent Ainu issues: possibilities through anthropological and archaeological studies
3. 学会等名 12th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Nobayashi
2. 発表標題 The Authentic Change of Material Culutre of the Indigenous People in Taiwan
3. 学会等名 The 3rd World Conference of Taiwan Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 アジアの先住民族：現状と人権問題
3. 学会等名 桃山学院大学国際教養学部開設10周年記念シンポジウム「アジアの先住民族と人権 フィリピン ママヌワ族の方をお招きして 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 K. Ikeya
2. 発表標題 Hunter-gatherers and Beads in Africa and Asia
3. 学会等名 International Symposium “ Integrated Anthropology from Genetics to Ecology, Biodiversity-Conservation of Organisms, Cultures, and Ethnicities ”
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 S. Nakai and K. Ikeya
2. 発表標題 Sedentarism and the continuity of the relationship between hunter-gatherers and farmers in Thailand
3. 学会等名 12th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 素材から見たビーズの道
3. 学会等名 みんなく友の会・オリ美友の会相互企画トーク・イベント(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 ビーズ展示からみえるホモサピエンス像
3. 学会等名 世界のビーズ講座特別版「文化のビーズ、文明のビーズ 縄文、エジプト、現代社会」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 趣旨説明
3. 学会等名 世界のビーズ講座特別版「文化のビーズ、文明のビーズ 縄文、エジプト、現代社会」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 人間にとってビーズとは何か？ つなぐ・かざる・みせる
3. 学会等名 世界のビーズ講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 民族誌からみた技術、資源利用、行動圏
3. 学会等名 パレオアジア文化史学A01/A02/B01合同研究会「温帯更新世の狩猟採集民の実像を求めて - 寒帯・温帯・熱帯での狩猟採集民の資源利用と移動・移住パターンの比較 - 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 タカラガイと貝の道
3. 学会等名 神奈川県立近代美術館葉山（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 アフリカのビーズとグローバルヒストリー
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信・野林厚志
2. 発表標題 民族学からみる狩猟採集社会同士の接触と交替
3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 K. Ikeya
2. 発表標題 Human dispersal and adaptation for livelihood: Hunting style changes with dog
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 長期間におけるアジアの狩猟採集民の社会変化と持続性
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門脇誠二・池谷和信
2. 発表標題 中部旧石器時代から上部旧石器時代への居住移動行動の変遷：南ヨルダン、カルハ山域の資源利用に注目して
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上羽陽子
2. 発表標題 線状物を生みだす人類の知恵
3. 学会等名 シンポジウム『バスケットリーと人類』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Nakatani, M. Kanetani and Y. Ueba
2. 発表標題 Unweaving textiles, Disentangling Ropes: Exploration of “Lineware” as an Analytical Category
3. 学会等名 Textile Society of America's 16th Biennial Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上羽陽子
2. 発表標題 糸やヒモのもつ見えない力 人類の繊維利用
3. 学会等名 小松市埋蔵文化財センター (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金谷美和・上羽陽子・中谷文美
2. 発表標題 道具としての植物利用 インド北東部アッサム地域を中心に
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上羽陽子・金谷美和・中谷文美
2. 発表標題 タケ利用と「単純な」技術 インド北東部アッサム地域を事例に
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Nakatani, Y. Ueba, and M. Kanetani
2. 発表標題 The vital role of “cordage” in food acquisition and other aspects of human life
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷文美
2. 発表標題 ヒトによる道具製作とジェンダー：『線具』としてのヒモへの注目から見えること
3. 学会等名 「ジェンダーの多層性に関する領域横断的研究2」2018年度第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 鵜飼からみた中国と日本 方法としての漁撈研究
3. 学会等名 名古屋大学環境学研究科特別講義（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 なぜ中国の鵪鶉ではカワウを domesticate するのか - 日本の鵪鶉との事例比較から
3. 学会等名 「日中交流セミナー・動物資源をめぐる文化のデザイン」国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 ウ類に対する働きかけの違いとその要因 日本と中国の鵪鶉をめぐる事例から
3. 学会等名 第70回日本民俗学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 中国の鵪鶉について 日本と中国の鵪鶉技術の違いから背景文化の違いを知る
3. 学会等名 第32回特別展示『中国の鵪鶉 卯田宗平フォトコレクションから』関連岐阜市民講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 景観認識としてのアイヌ文化遺産：北海道標津町における地域住民の語りを事例として
3. 学会等名 生態人類学会第24回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 アイヌ文化の二つの源流
3. 学会等名 2018年度同志社大学公開講座：地域と社会・文化
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 H. Onishi
2. 発表標題 Ainu historical heritage as common property of the local community
3. 学会等名 12th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 H. Onishi
2. 発表標題 Hybridization of two different cultural groups in the Ainu history
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 アイヌ文化に対する地域住民の多様な語り：北海道標津町7地区における聞き取り調査を事例として
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 H. Onishi
2. 発表標題 Is 'culture' a buzzword? Ontological challenge of an interdisciplinary project on the cultural history of early modern humans in Asia
3. 学会等名 CAA (Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology) 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 アイヌ文化の形成過程における異系統集団の混交
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西秀之・近藤康久・岩本葉子
2. 発表標題 文化としての人間行動という視座－パレオアジア文化史学の語彙分析を事例として
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kondo, Y., H. Onishi, and Y. Iwamoto
2. 発表標題 Lexical analysis of the concept of culture in the PaleoAsia project
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野林厚志・池谷和信
2. 発表標題 民族学からみる狩猟採集・農耕社会の接触と交替
3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Nobayashi
2. 発表標題 Social and cultural change in the indigenous population after contact with colonizers: Historical ecology of Taiwan's people in 18-20th century
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Nobayashi and Y. Peng
2. 発表標題 Cross-cultural perspective of the technology and techniques for hunting and gathering from the ethnographic data
3. 学会等名 12th Conference of Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 定量分析のための民族誌データセット：Binford (2001) を考える
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野林厚志・門脇誠二
2. 発表標題 中部旧石器時代から上部旧石器時代にかけての狩猟具の小型化の行動論的考察：民族誌からの予察
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村光宏・野林厚志
2. 発表標題 東南アジア大陸・島嶼・ウォーレス線境界と文化項目の相関の定量的検証
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村光宏・野林厚志
2. 発表標題 新人文化の鍵となる文化要素とその伝達様式：東南アジア・データベースの分析を中心に
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 T. Fujimoto
2. 発表標題 Social change and behavior patterns in the course of contacts between the previous inhabitant group and migrant group: A case study from Kazakh steppe
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本透子
2. 発表標題 民族接触の過程における人口変動 -カザフ草原の事例から
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本透子
2. 発表標題 中央アジア草原地帯における集団接触と居住形態の変化
3. 学会等名 B01班研究会「中央アジアの集団接触にともなう社会変容と物質文化 人類学と考古学の接点から」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊田悠
2. 発表標題 ウズベキスタン陶器職人の技能伝承一家系、資質、生計の関係から
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田世津子
2. 発表標題 技術と接触 中央アジア・墓碑をめぐる人の関係
3. 学会等名 B01班研究会「中央アジアの集団接触にともなう社会変容と物質文化 人類学と考古学の接点から」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Y. Peng
2. 発表標題 Cutting: from play to work among Baka children in southeastern Cameroon
3. 学会等名 12th Conference of Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 狩猟採集民バカに見られる景観情報の共有：集団採集活動を事例に
3. 学会等名 日本アフリカ学会代55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 道具利用行動に関する定量化の試みー狩猟採集民バカの切る行動を事例に
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Y. Peng
2. 発表標題 An exploratory quantitative analysis of tool use behaviors: In the case of cutting among Baka hunter-gatherers
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daniel Kricheff, Mayo Buenafo-Ze, Yasmine Musharbash, Carolyn O' Meara, Yujie Peng, Graeme Warren
2. 発表標題 Closing plenary: what have we learnt?
3. 学会等名 12th Conference of Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 熱帯地域の狩猟採集民にみられる道具利用の比較研究－集団内・外における社会関係に着目して
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Y. Yamanaka
2. 発表標題 Complexity and “environmental adaptability” of imaginary creatures
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田仁史
2. 発表標題 人類における 宗教 の進化：諸仮説の総合へ向けて
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田仁史
2. 発表標題 狩猟採集民における生業変容：新人文化へのパースペクティブ
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 H. Yamada
2. 発表標題 Evolution of religion and mythology: Its role in intergroup dynamics
3. 学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 想像界の生物相(4)－旅するマンドラゴラ伝承
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 想像界の生物相(5)－世界地図と水の怪物
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 ヒュードロドロの系譜 この世ならざるものの出現にともなう音
3. 学会等名 第477回みんぱくゼミナール（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toko Fujimoto
2. 発表標題 Economic Activity and Rituals for Maintaining Regional Society: A Case Study of Kazakh Villages in Central Asia
3. 学会等名 Community Maintenance in Periphery（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野林厚志・中村光宏
2. 発表標題 民族誌の定量的分析の方法論的課題と解釈上の課題
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤康久・大西秀之・岩本葉子
2. 発表標題 パスワードとしての『文化』
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 北アメリカ北方地域における先住民文化の多様性と定量化
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本透子・吉田世津子・菊田 悠
2. 発表標題 集団間接触と墓制の変遷 中央アジアにおける定性・定量調査の可能性
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田仁史・中沢祐一
2. 発表標題 ストーンボイリングおよび関連した文化革新/退行についての民族誌データ
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 狩猟採集民と狩猟採集民の相互関係 降水量変動、キャンプの移動、文化伝播(楽器)
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上羽陽子・金谷美和・中谷文美
2. 発表標題 アイヌ民族の可塑性『線具』にみる素材・製作技術の多様性
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 狩猟採集民にみられる道具と道具利用の多様性に関する比較研究
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 想像界の生物相(3) 天狗の進化系統樹
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 3年間の調査で見えてきたこと
3. 学会等名 標津町文化財特別展このまちの宝が伝える地域の物語:シンポジウム：地域資源としての歴史・文化
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 鵜飼を文化としてとらえる
3. 学会等名 国立民族学博物館友の会国内体験セミナー「三次の鵜飼漁見学と広島県の民俗芸能に会う」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 鵜飼文化とは何か
3. 学会等名 サンケイトラベル「長良川鵜飼漁見学」レクチャー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Peng, Y
2. 発表標題 Plant utilization in decoration culture among the Pygmy hunter-gatherers in central Africa: In the Baka 's case of traditional medicine ornaments
3. 学会等名 The 2th National Conference of Ethnoecology of China (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toko Fujimoto
2. 発表標題 The Religious and Social Aspects of "Ancestral Lands" in Rural Kazakhstan: An Anthropological Perspective
3. 学会等名 ESCAS-CESS Joint Conference, American University of Central Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 地球環境問題をめぐるズレの課題と可能性
3. 学会等名 第10回コアプログラム研究会「ズレとしまい」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 なぜ鶴飼のウミウは産卵したのか
3. 学会等名 第15回生き物文化誌学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamada, H.
2. 発表標題 Swan Maiden in Hunter-Gatherer and Horticulturalist Worldviews
3. 学会等名 The 11th Annual International Conference on Comparative Mythology (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 地域共有資源としてのアイヌ文化史跡の可能性：ポー川史跡自然公園を中核とする文化的景観を事例として
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 ビーズから見たアジア世界 貝殻とダチョウの卵殻に注目して
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会』
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 北東アジア地域における生業活動の男女差と集団接触の諸相
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 民族誌的視座からの人類進化と技術革新の関係をめぐる一考察
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金谷美和・上羽陽子・中谷文美
2. 発表標題 インド、アッサムにおける生態資源利用 『線具』を中心に
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菊田悠
2. 発表標題 中央アジアにおける社会関係とモノの変化 青い陶器の発展と消滅
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本透子
2. 発表標題 集団間の接触にともなう住居の変化 カザフの定住化に関する人類学調査から
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 彭宇潔
2. 発表標題 民族誌的視点からの装身具と身体装飾 狩猟採集民と他集団との関係に注目して
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 「適応」を再考するーニッチと文化の境界ー
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakatani, A.
2. 発表標題 Conversing through textiles: Mediation across producing and consuming ends of Balinese songket
3. 学会等名 Fashionable Tradition: Innovation and Continuity in the Production and Consumption of Handmade Textiles and Crafts, A Joint CASCA and IUAES Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nobayashi, A.
2. 発表標題 Taste or cuisine: changes in "authentic" Taiwanese indigenous culinary practices
3. 学会等名 A joint inter-congress/conference of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) and Canadian Anthropology Society(CASCA)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田仁史
2. 発表標題 民族誌データに基づく人類集団動態モデルの構築 - 本研究がめざすもの -
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 想像界の生物相(2)：人魚イメージの世界的分布と水棲動物の棲息地
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田世津子
2. 発表標題 クルグズ人の定住化と墓の形態変化 中央アジア・社会とモノの変化に関する予備的考察
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakamura M., Atsushi Nobayashi
2. 発表標題 Detecting correlations between cultural factors in Paleoasian populations
3. 学会等名 International workshop “Theoretical Models of Cultural Evolution during Modern Human Dispersals” Meiji University (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsushi Nobayashi
2. 発表標題 Size of hunting area and the techniques of hunter-gatherer groups for hunting games using ethnographic data
3. 学会等名 International Workshop ‘Biological and cultural transitions in the Middle and Upper Paleolithic in West Asia: Perspectives from PaleoAsia’ (The 2nd Conference on Cultural History of PaleoAsia)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 新人文化の形成：文化・行動変化の文化人類学的モデル
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上羽陽子・金谷美和・中谷文美
2. 発表標題 紐と糸をめぐる技術民族誌的研究
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 産業社会以前における手工芸技術の学習に関する民族誌モデル
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本透子
2. 発表標題 定住化にともなうカザフ村落社会の形成と変容
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 想像界の生物相 マンティコーラにみる名付けと形象化
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 モノに刻み込まれた帝政ロシアの植民地経営
3. 学会等名 日本シベリア学会第2回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上羽陽子・金谷美和・中谷文美
2. 発表標題 南アジアにおける糸素材および織機の技術民族誌的研究
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大西秀之
2. 発表標題 北東アジア地域における多文化集団の接触・交流状況：北海道開拓の開発と政策によるアイヌ社会聖地の創造
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤本透子・吉田世津子
2. 発表標題 中央アジアにおける遊牧民の定住化 居住形態の変化を中心に
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山中由里子
2. 発表標題 想像界の生物相：生態系と人間の想像力の相関関係の比較文化的研究
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hideyuki Onishi
2. 発表標題 Two Different Ancestors of the Ainu People: Roles of the Satsumon Culture and the Okhotsk Culture in Ainu History
3. 学会等名 WAC (World Archaeological Congress)-8 Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hideyuki Onishi
2. 発表標題 Enforcement of Foraging Society on the Ainu
3. 学会等名 WAC (World Archaeological Congress)-8 Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上羽陽子・金谷美和・中谷文美
2. 発表標題 南アジアにおける糸素材および織機の技術民族誌的研究
3. 学会等名 (新学術領域研究)人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築』『パレオアジア文化史学B01-B02班合同会議』(代表：野林厚志)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊田悠
2. 発表標題 ウズベキスタン、リシトン陶業現代史 ものと人間の関係モデルに関連付けるには
3. 学会等名 『(新学術領域研究)人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築』『パレオアジア文化史学B01-B02班合同会議』(代表:野林厚志)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 狩猟採集民と農耕民との相互関係の動態
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020:パレオアジア文化史学第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 去勢なき家畜飼育のこれから 中国大興安嶺のエヴェンキ族らとトナカイ
3. 学会等名 大学共同利用機関法人人間文化研究機構北東アジア地域研究国立民族学博物館拠点月例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 生業を裏打ちする文化を探る
3. 学会等名 大学共同利用機関シンポジウム2016『研究者に会いに行こう 大学共同利用機関博覧会』
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 狩猟採集民と隣人との相互関係について
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 野林厚志・丸川雄三
2. 発表標題 生態資源獲得の道具と技巧の人類学的研究
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fujimoto, T.
2. 発表標題 Ancestral Land and Networking in the Course of Privatization after Socialism: A Case Study in Kazakhstan
3. 学会等名 East Asian Anthropological Association 2016 Meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 「反馴化」という働きかけ 中国と日本の鵜飼い漁の事例から
3. 学会等名 総合研究「自然観」（前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究）研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上羽陽子
2. 発表標題 物質文化展示の新たな可能性について 国立民族学博物館南アジア展示場を事例に
3. 学会等名 第58回意匠学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 卯田宗平
2. 発表標題 概念を規定し、事例を読みとく - 鶉飼研究、中国から日本、そしてマケドニアへ
3. 学会等名 2016年度海外学術調査フォーラム・ワークショップ『フィールドサイエンスにおけるドキュメンテーション - あつめる・はかる・かぞえる』
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計63件

1. 著者名 Ikeya K. and Y. Nishiaki (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5. 総ページ数 282
3. 書名 Hunter-Gatherers in Asia: From prehistory to the present	

1. 著者名 近藤康久・大西秀之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 227
3. 書名 環境問題を解く：ひらかれた協業研究のすすめ	

1. 著者名 Ikeya K. and Y. Nishiaki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5. 総ページ数 1-24
3. 書名 Hunter-Gatherers in Asia: From prehistory to the present, ('Introduction: Cultural Diversity among Asian Hunter-Gatherers from Prehistory to the Present')	

1. 著者名 Ikeya, K. and Pothisarn Chumpol	4. 発行年 2021年
2. 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5. 総ページ数 91-105
3. 書名 Hunter-Gatherers in Asia: From prehistory to the present, ('The Dispersal of Prehistoric Hunter-Gatherers and the Roles/Materials of Beads: An Ethno-Archaeological Approach')	

1. 著者名 Nakai, Shinsuke and Kazunobu Ikeya	4. 発行年 2021年
2. 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5. 総ページ数 179-192
3. 書名 Hunter-Gatherers in Asia: From prehistory to the present, ('Sedentarism and the Continuity of the Relationship between Hunter-Gatherers and Farmers in Thailand')	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2021年
2. 出版社 農山漁村文化協会	5. 総ページ数 43-69
3. 書名 食の文明論 食の文明論 ホモ・サピエンス史から探る(「狩猟採集民の食 先史から現在まで」)	

1 . 著者名 Onish, H.	4 . 発行年 2021年
2 . 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5 . 総ページ数 195-214
3 . 書名 Hunter-Gatherers in Asia: From prehistory to the present, ('Historical Dynamics of Ainu Society: The Social Structure of Hokkaido Ainu in Historic Documents in the Premodern Period')	

1 . 著者名 Onish, H.	4 . 発行年 2021年
2 . 出版社 Research Institute for the Dynamics of Civilizations Okayama University	5 . 総ページ数 81-94
3 . 書名 Landscape, Monuments, Arts, and Rituals: Out of Eurasia in Bio-Cultural Perspectives.('Tribe" or "Chiefdom"?: Lost Possibilities of Ainu Society and Influences from Outside Worlds.')	

1 . 著者名 Peng, Y. and A. Nobayashi	4 . 発行年 2021年
2 . 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5 . 総ページ数 73-90
3 . 書名 Hunter-Gatherers in Asia: From prehistory to the present, ('Cross-Cultural Research Comparing the Hunting Tools and Techniques of Hunter-Gatherers and Hunter-gardeners. Hunter- Gatherers in Asia: From Prehistory to the Present')	

1 . 著者名 Yatsuka, H. and K. Ikeya	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 Routledge	5 . 総ページ数 49-63
3 . 書名 Rethinking African Agriculture: How Non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoods('Farming Practices among African Hunter-Gatherers: Diversifying without Loss of the Past')	

1. 著者名 Nobayashi, A. and S. Simon(eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5. 総ページ数 230
3. 書名 Environmental Teachings for the Anthropocene: Indigenous Peoples and Museums in the Western Pacific	

1. 著者名 Nobayashi, A	4. 発行年 2020年
2. 出版社 National Museum of Ethnology, Osaka	5. 総ページ数 51-63
3. 書名 Environmental Teachings for the Anthropocene: Indigenous Peoples and Museums in the Western Pacific('The Diversity of Taiwanese Indigenous Culture Seen in Bead Products')	

1. 著者名 藤本透子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 英明企画編集	5. 総ページ数 65-80
3. 書名 人のつながりと世界の行方 コロナ後の縁を考える(「移動する人々のつながり カザフ草原に生きる家族の事例から」)	

1. 著者名 山中由里子・I. ドラーランツ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 157-188
3. 書名 東西中世のさまざまな地平 フランスと日本の交差するまなざし(「マンドレイクの採取法 ヨーロッパ・中東・中国における知識の往還」)	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 199
3. 書名 トナカイの大地、クジラの海の民族誌：ツンドラに生きるロシアの先住民チュクチ	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 227-245
3. 書名 レジリエンス人類史（「狩猟採集民の生存戦略：移動と環境適応」）	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 336
3. 書名 ビーズでたどるホモ・サピエンス史	

1. 著者名 Nakatani, Ayami	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 305
3. 書名 Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion	

1. 著者名 国立民族学博物館	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 240
3. 書名 驚異と怪異：想像界の生きものたち	

1. 著者名 山中由里子、山田仁史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 この世のキワ 自然 の内と外	

1. 著者名 菊田悠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 共同文化社	5. 総ページ数 80
3. 書名 ウズベキスタン陶芸紀行-よみがえるシルクロードの窯元-	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 289 - 299
3. 書名 ビーズでたどるホモ・サピエンス史 美の起源に迫る	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 2 - 21
3. 書名 ビーズでたどるホモ・サピエンス史 美の起源に迫る	

1. 著者名 Nakatani, Ayami	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 1-16
3. 書名 Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 46 - 67
3. 書名 犬からみた人類史	

1. 著者名 Nakatani, Ayami	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 79-98
3. 書名 Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion	

1. 著者名 Ueba, Yoko	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 235-251
3. 書名 Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion	

1. 著者名 Kanetani, Miwa	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 137-153
3. 書名 Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 241 - 255
3. 書名 ビーズでたどるホモ・サピエンス史 美の起源に迫る	

1. 著者名 藤本透子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ボーダインク社	5. 総ページ数 179 - 215
3. 書名 辺境コミュニティの維持 島嶼、農村、高地のコミュニティを支える「つながり」	

1. 著者名 山田仁史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 131 - 158
3. 書名 犬からみた人類史	

1. 著者名 山田仁史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 延世大學校	5. 総ページ数 126 - 136
3. 書名 第二屆東亞民俗文化與民間文學論壇：東亞各國民俗文化與口傳文學的交流及互動	

1. 著者名 山中由里子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 4 - 16
3. 書名 この世のキワ 自然 の内と外	

1. 著者名 山田仁史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 328 - 345
3. 書名 世界の神話 英雄事典	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立政治大学原住民研究中心	5. 総ページ数 208 - 225
3. 書名 第12回台日原住民族研究論壇	

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 136
3. 書名 Beads in the world	

1. 著者名 R. Fleming Puckett and K. Ikeya	4. 発行年 2018年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 342
3. 書名 Research and Activism among the Kalahari San Today: Ideals, Challenges, and Debates (Senri Ethnological Studies 99)	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神奈川県立近代美術館	5. 総ページ数 41-49
3. 書名 国立民族学博物館コレクション貝の道	

1. 著者名 大西秀之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 125-149
3. 書名 ムカシのミライ：プロセス考古学とポストプロセス考古学の対話	

1. 著者名 山田仁史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 37-54
3. 書名 外国人の発見したニッポン	

1. 著者名 Y. Yamanaka	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Verlag fur Orientkunde	5. 総ページ数 152-172
3. 書名 Terra Ridens	

1. 著者名 Y. Ueba	4. 発行年 2018年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 162-165
3. 書名 National Museum of Ethnology Exhibition Guide	

1. 著者名 Y. Ueba	4. 発行年 2018年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 74-75
3. 書名 Beads in the World	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 215
3. 書名 EEM国立民族学博物館開館40周年記念特別展：太陽の塔からみんなくへ：70年万博収集資料	

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 350
3. 書名 Senri Ethnological Studies No.95: Sdentarization among Nomadis People in Asia and Africa	

1. 著者名 山田仁史	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 200
3. 書名 新・神話学入門	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 5 - 30
3. 書名 肉食行為の研究	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 212 - 238
3. 書名 肉食行為の研究	

1. 著者名 Ikeya, K. and S. Nakai.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 171-191
3. 書名 Sedentarization among Nomadic Peoples in Asia and Africa, Senri Ethnological Studies 95	

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 1-15
3. 書名 Sedentarization among Nomadic Peoples in Asia and Africa, Senri Ethnological Studies 95	

1. 著者名 山田仁史	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 309-321
3. 書名 カニバリズム論	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 136
3. 書名 ビーズ	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 1 - 21
3. 書名 『狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生』池谷和信編	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 297 - 302
3. 書名 『狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生』池谷和信編	

1. 著者名 山中由里子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 思文閣	5. 総ページ数 170 - 195
3. 書名 『海賊史観からみた世界史の再構築 公益と情報流通の現在を問い直す』稲賀繁美編	

1. 著者名 山中由里子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 139 - 158
3. 書名 『欧州航路の文化誌 寄港地を読み解く』橋本順光・鈴木禎宏編	

1. 著者名 Ikeya, K. and Robert K. Hitchcock	4. 発行年 2016年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 1 - 15
3. 書名 Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia, Africa, and South America (Senri Ethnological Studies 94), K. Ikeya and Robert K. Hitchcock(eds.)	

1. 著者名 Ikeya, K.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 255-267
3. 書名 Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia, Africa, and South America (Senri Ethnological Studies 94), K. Ikeya and Robert K. Hitchcock(eds.)	

1. 著者名 Nakai S. and K. Ikeya	4. 発行年 2016年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 123-138
3. 書名 Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia, Africa, and South America (Senri Ethnological Studies 94), K. Ikeya and Robert K. Hitchcock(eds.)	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 43-54
3. 書名 『環境に挑む歴史学』水島司編	

1. 著者名 Ikeya, K. and Robert K. Hitchcock	4. 発行年 2016年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 289
3. 書名 Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia, Africa, and South America (Senri Ethnological Studies 94)	

1. 著者名 池谷和信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生	

1. 著者名 Peng, Y.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 松香堂書店	5. 総ページ数 97
3. 書名 Inscribing the Body: An Anthropological Study on the Tattoo Practice among the Baka Hunter-Gatherers in Southeastern Cameroon	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築 (2016-2020) https://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/16H06411 人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築 (2016-2020) https://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/16H06411 人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築 (2016-2020) http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/16H06411 旅いろいろ地球人「パレオアジア文化史」 http://www.minpaku.ac.jp/museum/showcase/media/tabiiroiro/backnumber 人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築 (2016-2020) http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/16H06411</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池谷 和信 (Ikeya Kazunobu) (10211723)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授 (64401)	
研究分担者	上羽 陽子 (Ueba Yoko) (10510406)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	藤本 透子 (Fujimoto Toko) (10582653)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授 (64401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山中 由里子 (Yamanaka Yuriko) (20251390)	国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・教授 (64401)	
研究分担者	山田 仁史 (Yamada Hitoshi) (90422071)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	卯田 宗平 (Uda Shuhei)		
研究協力者	大西 秀之 (Onishi Hideyuki)		
研究協力者	金谷 美和 (Kanetani Miwa)		
研究協力者	菊田 悠 (Kikuta Haruka)		
研究協力者	高木 仁 (Takagi Hitoshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	戸田 美佳子 (Toda Mikako)		
研究協力者	中谷 文美 (Nakatani Ayami)		
研究協力者	彭 宇潔 (Peng Yujie)		
研究協力者	丸川 雄三 (Marukawa Yuzo)		
研究協力者	吉田 世津子 (Yoshida Setsuko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 世界考古学会議 (World Archeological Congress 8)	開催年 2016年～2016年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------